

坂本一成 建築展

Kazunari Sakamoto Architecture exhibition

■シンポジウム/『『日常の詩学』について』

基調講演:坂本一成

鼎談:坂本一成、八束はじめ、坂牛卓 司会:奥山信一
2008年10月8日 [水] 18:00~20:30 (開場/17:30)
東京工業大学百年記念館3階フェライト記念会議室
定員約100名/先着順/入場無料

■ギャラリートーク

2008年10月6日 [月]、16日 [木] いずれも18:00~20:30
東京工業大学百年記念館1階展示室/参加無料

□主催:東京工業大学百年記念館 □共催:大学院理工学研究科建築学専攻
□後援:大田区教育委員会/ギャラリー・間/(社)蔵前工業会/(株)新建築社
/TIT建築設計教育研究会/冬夏会/(社)東京建築士会/TOTO/ドイツ工作
連盟/(社)日本建築家協会/(社)日本建築学会/目黒区教育委員会(50音順)
□展示協力:人間環境システム専攻/計算工学専攻亀井研究室

東京工業大学百年記念館 東京工業大学大岡山キャンパス
〒152-8550 東京都目黒区大岡山2-12-1 東急目黒線・大井町線大岡山駅下車徒歩1分
TEL:03-5734-3340 FAX:03-5734-3348 URL:<http://www.libra.titech.ac.jp/cent>

日常の詩学
Poetics in the ordinary

2008年10月2日 [木] - 21日 [火] 10:00 - 17:00 (6, 8, 16日のみ20:30まで) 入場無料・会期中無休 東京工業大学百年記念館1階展示室



坂本一成 建築展

日常の詩学

Poetics in the ordinary

坂本一成は、主に住宅設計を通して、建築とは何なのか、人間と建築の関係はどうあるべきなのかを考え続けてきた建築家です。その作風は、初期の「閉じた箱」から、より開かれた「領域」をつくることへの関心へ、さらには建築の構成要素のより自由な関係性へと変わってきましたが、その底流にあったテーマは、制度化された日常を再考しつつ組み替えながら、建築の「より自由なあり方」を模索することに、坂本の言葉で言いかえれば、「日常の詩学」にありました。

その主要住宅作品を中心にした展覧会「坂本一成 — 住宅：日常の詩学」展が、2004年秋にドイツ・ミュンヘンを皮切りにデンマーク、ノルウェー、エストニア、チェコを巡回し、ミュンヘンで10万人以上、ほかの会場でもそれぞれ数千人を集めるなど、好評を博しました。今秋東京工業大学で開催する「坂本一成 建築展『日常の詩学』」は、その展覧会の帰国展であるとともに、この巡回展を通じてヨーロッパの文化人から得た坂本の作品に対する評価を日本側がどう受け止めるかを考える機会を提供するものでもあります。それは、坂本一成のこれまでの歩みを振り返りながら、90年代以後、「建築」という概念が拡散し、従来の建築観が相対化されていく状況の中で、これからの建築について模索する試みのひとつにもなるとも思われます。

このヨーロッパの巡回展がスタートしたあとに、坂本は、ミュンヘンの集合住宅の国際コン

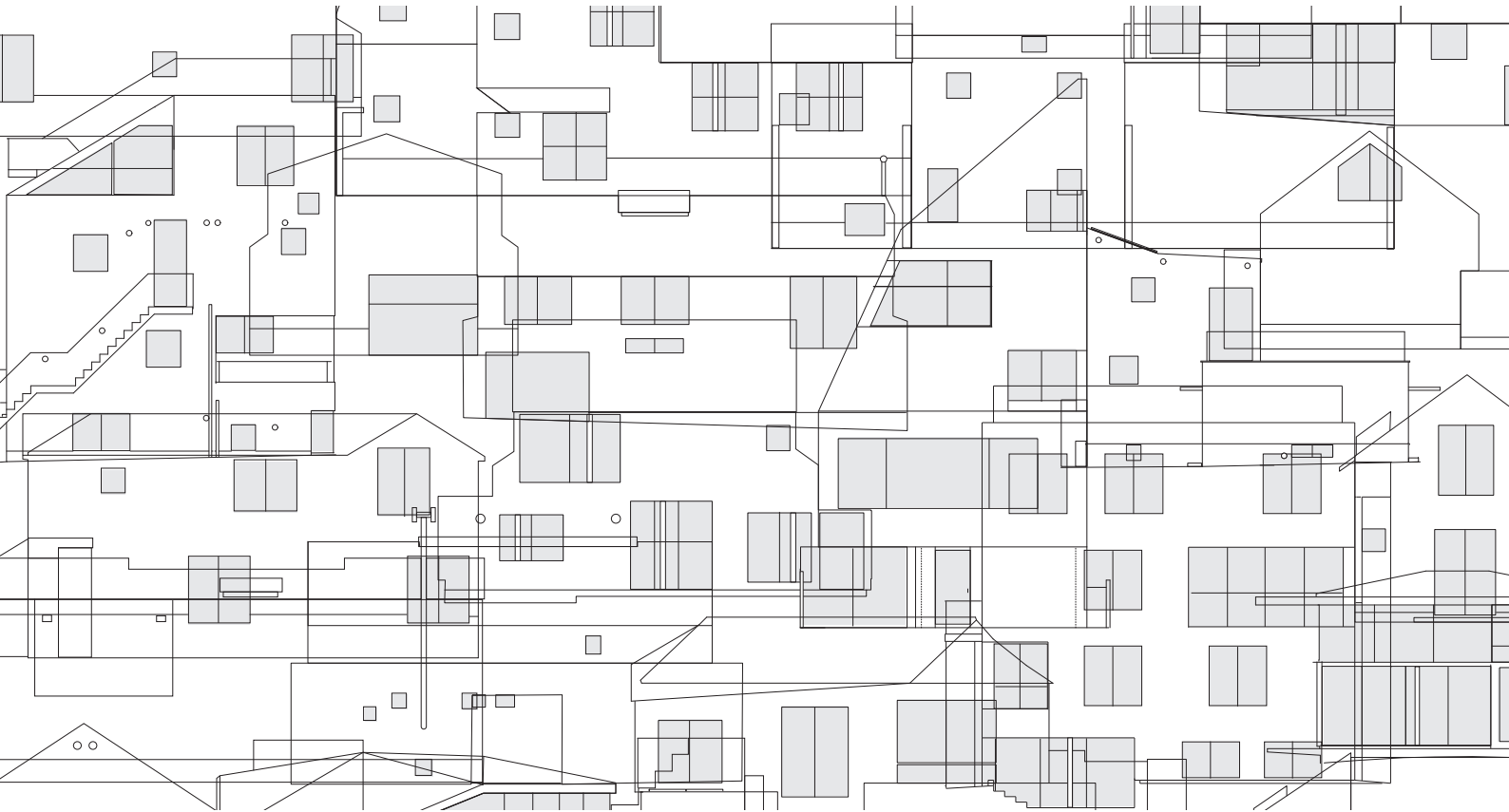
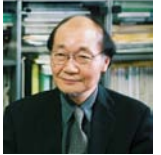
ペに入選するとともに、「東京工業大学 Tokyo Tech Front (仮称)」を設計し(日建設計と協同、現在建設中)、また熊本県の「宇土市立網津小学校」のコンペの実施設計者に選ばれていますので、それらについてもあわせて展示します。

会期中にはシンポジウムを1回、ギャラリートークを2回行う予定です。シンポジウムでは、坂本のモノのつくりかたやその背景にある建築観を解説しながら、現代日本の建築界の状況についても議論が交わされる予定です。またギャラリートークは、坂本本人が自作を解説するとともに、聴衆からの質問にできるだけ応えようというものです。

「坂本一成 建築展『日常の詩学』」実行委員長
東京工業大学大学院理工学研究所教授 藤岡洋保

坂本一成 Kazunari Sakamoto

1943年 東京に生まれる／1966年 東京工業大学建築学科卒業／1971年 東京工業大学大学院博士課程を経て武蔵野美術大学建築学科専任講師／1977年 同助教授／1983年 東京工業大学助教授／1991年同教授、現在に至る／1990年「House F」で日本建築学会作品賞／1991年「コモンシティ星田」で村野藤吾賞



「坂本一成 — 住宅：日常の詩学」展(2004)
ピナコテーク・デア・モデルネ建築博物館(ドイツ、ミュンヘン)での展示風景